

嘉林
174

新編眼と唯
氣節と相成先以て

尊兄逾の健勝若方

而之向の以盡力之事

と迄の度賀の叔

在京中、不相交、又、世話

相成、鳴謝、之、心、生、一

行、旅、程、に、安、居、る、日

著、御、早、進、口、書、の、

相成り鳴謝を心せし

行旅程に安んずるに

著御早速の書に

仕事と書に有るに

より日々多忙遂に

日々多忙ありて國神仕

少海客と云ふに這回

自映君暫時歸朝

逾韓國の住居に決

心して定地購買に

新築の計あり

由誠侯爵の家

ふし事として金

尊兄の厚配の致す所

と深く感銘を謝す

尚將來に就る事

ふし事... 今

尊兄の厚配の致す所

と深く感銘と謝と

尚将来の就る事

直映君への申上置よむ

相成公且統監の面

會成まの可然の相

族成まの不相願

何の事

尊兄のみ打掛上

恩痛いともお生

宗家と思ひの濃誠以諒

察彼に終るに委依

教付るに末直是

奥方様、着御後仰

見舞の上なる間憚

宗家と思ふに漸く此
察彼に終ては多岐に依
教付ては末真実

奥方様、若御後中

是舞中上迄は向中様

正名は鳳舞年相願

書り盡意也

頓首

四月廿四夜

直彬

大隈仁兄研北